農作物の生育状況と今後の見通し・農作業安全について（6月）

鳥取県農業気象協議会
（鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まとめ）
令和8年6月15日　現在

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
作物	水稲	・一部の大規模農家・法人等を除き、概ね田植えは終了した。 ・田植えが遅れている大規模経営体も、6月下旬に概ね終了する見込み。 ・春先の降雨による耕うん作業の遅れ、水利事情による用水量不足の影響による代かきの遅れ等から田植が遅れる例が散見される。 ・著しい濁水は見られないが、用水量が元々少ない地域では、田植後の湛水が遅れる場合が見られた。 ・一部で、水位不足によって雑草多発が見られるが、除草効果は平年並の様子である。 ・中山間・山間地の一部で、低温による活着不良や葉先枯れが散見されたものの、田植え後に回復傾向にあり、分げつは概ね平年並の印象である。 ・スクミリンゴガイの発生地域では春先の高温により貝の発生が早く、降雨後の深水により一部で食害が確認されているが、対策管理の徹底により大きな被害は見られない。 ・一部でイネミズゾウムシの食害が散見され、成虫が現認されているが、その他の目立った病害虫は発生していない。	・茎数増加を促すため、昼間の止水浅水管理を徹底する。 ・目標茎数確保後は、品種特性に応じた中干しを行う。 ・雑草繁茂ほ場では、中後期除草剤などにより、雑草防除に努める。
	麦	・ビール麦は、今年度、品種が「はるさやか」に切り替わり品種特性と好天により収穫適期はこれまでより早い傾向であった。 　倉吉市では5月24日頃から収穫が始まり、好天によって数日で収穫が終了した。 　北栄町でも同時期に収穫が始まり、6月10日には概ね収穫が終了した。 　平均反収は現時点で不明だが平年並の見込み。 ・麦類赤かび病の注意報が発令されたが、ビール麦では追加防除の徹底によって赤かび病の発生は目立たなかった。 ・小麦は例年より早く成熟期を迎えており、5月下旬から収穫が始まっている。 　播種時期の早い「ふくほのか」が最も早く、次いで「はる風ふわり」を収穫。 　播種時期が遅いほ場や「銀河のちから」のような晩熟品種の順に収穫作業が進む見込み。 　降雨によって収穫が遅れる事例もある。 ・赤かび病の追加防除を呼びかけて実施されたところが多く、目立った発生はないが、わずかに発生が確認されたところでは仕分け対応されている。	・小麦の適期刈取と選別・調製によって、赤かび病や穂発芽発生を抑止し、品質向上に努める。
	大豆	・5月下旬から順次播種作業が行われている。 ・平年より2日早い6/4に梅雨入りしたため、晴れ間での播種が行われているが、降雨が連続する場合タイミングが難しくなってくる。 ・6月上中旬から播種作業の盛期を迎えているが、現時点で早播ほ場の苗立ちは順調である。	・額縁明渠・弾丸暗渠による排水対策に努め、湿害回避を図る。 ・播種後、大雨が予想される場合は、無理をして播種をせず、天気予報を参考に少なくとも播種後3日間はまとまった降雨が見込まれない日に播種をする。7月上旬頃を目処に播種を終えるようにする。 ・大豆5葉期（播種後30～40日）頃を目安に中耕培土を行う。 ・雑草の多いほ場では、中耕培土や茎葉処理除草剤の散布を行う。除草剤散布に当たっては、使用方法、使用時期を確認し、適正に使用する。
果樹	ナシ	・大袋かけ作業の最中である。 ・6月13日の果実発育調査結果は、次のとおり。 「二十世紀」：6園の横径平均が37.8mmであり前年比104%（4日早い）・平年比104%（3日早い） 「新甘泉」：3園の横径平均が40.0mmであり前年比106%（4日早い）・平年比103%（2日早い） ・5月に局所的にアブラレによる被害があったが、摘果により被害果を取り除くことができ、減収にはならない。 ・一部の園では黒星病による罹病果が多かった。カメムシが散見されているが、被害が発生する程度ではない。	・梅雨期であり、降雨が続く場合や豪雨への排水対策を行い、雨水を園外へ排出する。 ・気温が上がり乾燥状態が続く場合は、適宜かん水を行う。特に幼木にはこまめにかん水を行う。 ・新梢伸長が停止する頃（6月下旬）から新梢誘引を行い、更新用の側枝を準備する。 ・カメムシが増加する恐れがあり、園内への飛来状況を確認し、防除を徹底する。また、高温が続くとハダニ類が急増するので観察して早めに防除する。
	カキ	・開花中心日（園芸試験場）は、次のとおり。 「輝太郎」：5月23日（前年よりも1日遅い、平年よりも1日早い） 「富有」：5月24日（前年・平年よりも1日早い） 「西条」：5月23日（前年と同じ、平年よりも1日早い） ・摘果作業中である。例年よりも着果が多く、「輝太郎」では遅花が多いことから、摘果に時間がかかっている。また、生理落果も始まっている。 ・開花中にコメツキムシが見られた園があるが、大きな被害にはなっていない。カメムシが散見されているが、現時点では被害が発生する程度ではない。	・摘蕾・摘花を実施出来ていない樹・園では、粗摘果を行って大玉果実を目指す。梅雨期の生理落果が落ち着いた後に仕上げ摘果を行う。 ・梅雨期であり、降雨が続く場合や豪雨への排水対策を行い、雨水を園外へ排出する。 ・気温が上がり乾燥状態が続く場合は適宜かん水を行う。特に幼木にはこまめにかん水を行う。 ・カメムシが増加する恐れがあり、園内への飛来状況を確認し、防除を徹底する。 ・フジコナカイガラムシ、落葉病、炭疽病等の防除を行い、病害虫の拡大を防ぐ。
	ブドウ	・6月11日の果実発育調査結果（1園、令和8年から園地変更）は、次のとおり。 「ピオーネ」：横径が23.9mmであり前年比104%・平年比107% 「シャインマスカット」：横径が16.3mmであり前年比107%・平年比98% ・中部砂丘地の無加温ハウスの「シャインマスカット」のジベレリン処理2回目が5月26日頃であり、昨年よりも5日程度早い。 ・コガネムシ等の害虫が散見されるが、大きな被害にはなっていない。	・ハウスの温度管理を行い、高温による着色不良を防ぐ。 ・新梢・副梢の管理、摘粒・着房数の見直しで、高品質な房づくりを行う。 ・病害虫では、べと病、チャノキイロアザミウマ、ハマキムシ類等の発生に留意し、防除を行う。
野菜	すいか	【ハウス】 ・出荷は5月23日から開始（昨年5月28日 ）。階級は当初3L中心の2L寄りから、現在は同4L寄りとなっている。 ・高温の影響で、うるみ果の発生が例年より多い。細菌による異常果が5月末から発生し、選果による確認が徹底されている。 ・病害虫はアブラムシ、うどんこ病の発生が多く、一部でハダニ、土壌病虫害（つる割病、黒点根腐病、ネコブセンチュウ）の発生もみられる。 ・中～小型獣の食害による被害が例年より多い傾向にある。 【トンネル】 ・6月12日頃から出荷開始。6月22日の週に出荷のピークを迎える見込み。 ・一部で菌核病、うどんこ病、土壌病虫害（つる割病、黒点根腐病、炭腐病）の発生が見られる。	・高温による日焼けやうるみ果の発生に注意し、遮光、遮熱資材による対策を呼びかける。 ・うどんこ病、アブラムシ、ハダニ類等の防除を徹底する。 ・トンネル栽培では、長雨や大雨時には褐色腐敗病、疫病の防除を行う。
	白ねぎ	【春ねぎ】 8年産　収穫は5月下旬にほぼ終了。例年と比べ抽苔が早く、加工業務用での出荷が多かった。 9年産　播種・育苗中。一部定植が開始。 【夏ねぎ】 トンネル栽培、無トンネル栽培で出荷中。例年より抽苔の発生がやや多く、暖冬で生育が進んだことが原因と考えられる。 ・小菌核病、小菌核腐敗病、ネキリムシ、ハモグリバエ、ネギアザミウマ、シロイチモジヨトウの発生が見られる。 【秋冬ねぎ】 ・定植、生育中。5月上旬に定植後乾燥による活着遅れ、初期生育の遅れがみられたが、その後の降雨があり、順調に生育している。 べと病、ネギハモグリバエ、アザミウマの発生が見られる。	【春ねぎ】 ・高温期の育苗ではハウスの遮光、換気等の高温対策と適切なかん水管理を行う。 ・定植前に薬剤灌注による黒腐菌核病防除を呼びかける。 【夏ねぎ・秋冬ねぎ】 ・高温期の病害虫防除（軟腐病、白絹病、鱗翅目害虫）の防除の徹底を呼び掛ける。 ・夏越し前の計画的な土寄せを実施する。 【共通】 ・水田転換畑では、梅雨期の大雨に備え、通路と明渠を連結するなど排水対策と除草剤を効果的に使用し、雑草管理を行う。
	ブロッコリー	・出荷は終盤になり6月下旬に終了予定。 ・病害虫の発生は少ないが、降雨後に黒すす病の発生が散見される。 ・5月下旬の猛暑により花蕾品質の低下が発生した。 ・6月上旬に茎の空洞部分に水浸状症状が発生し、廃棄する対応をしている（発生量は1割未満）。 原因について調査中。	・黒すす病、アブラムシ類、鱗翅目の防除を行う。
	らっきょう	【東部地区】 出荷中。出荷量は平年に比べて少ない。集荷はじめは中玉傾向であったが、6月1週目終わりころから大玉傾向。単価は昨年に比べて高単価を維持している。 一部で地上部の早期枯れ上がりの発生があり、ロビンネダニによるものと考えられる。 【中部地区】 出荷は6月15日販売分で終了。単価は堅調に推移し、収量は前年並みであったが、栽培面積の減少により販売額は昨年を下回る見込み。	・種球は無病で良質種球を確保し、選別を徹底する。 ・土壌消毒を徹底する。 ・中部地区は3年連続で低収が予想されるため、低収要因の整理と増収に向けた対策を検討。
	トマト（促成）	・3～5段目の収穫・出荷が行われている。 ・一部のほ場では、灰色かび病とコナジラミの発生が見られる。	・出荷は6月末まで続く見込み。 ・コナジラミ、灰色かび病の防除を徹底する。
	トマト（夏秋）	・定植は平年並みの6月10日までに終了。 ・定植後の活着は良好で問題なく生育が進んでおり、現在2段目が開花中。 ・病害虫の発生は特に見られていない。	・芽かき、葉かき、トマトトーン処理等の管理作業が遅れないように注意喚起を行う。。 ・梅雨入りとなり湿度の上昇が考えられるため、病気の予防防除を呼び掛ける。 ・例年より1週間ほど早い6月29日より出荷開始予定。
	ミニトマト（半促成）	・生育は概ね順調。6月1日から初出荷が始まっている。 ・トマトキバガ、コナジラミの発生が散見されるが、現状目立った被害にはなっていない。	・梅雨時期となり、軟腐病、すすかび等が発生する恐れがある。トマトキバガ、コナジラミに対する注意喚起と併せ、防除の啓発を行う。
	ながいも	【ねばりっこ】 生育は概ね順調。順次つる管理、追肥などが行われている。 梅雨期となるため炭疽病中心の防除が行われている。 【ながいも】 出芽が始まり、芽出しの追肥が行われている。	・梅雨時期の炭疽病の予防を中心に防除を徹底する。
	アスパラガス	【ハウス】 ・生育はやや早く、春芽の収穫がほぼ終わり、夏芽の収穫が始まっている。 ・収穫量は多くない。 【雨よけ・露地】 ・立茎はほぼ終了している。 ・病害虫の発生はほぼんとみられないが、褐斑病・茎枯病の初発生が確認された。	・立茎完了後の適切な整枝を行う。 ・病害虫の発生が多くなる高温多湿を迎えるため、茎枯病、アザミウマ等の防除を徹底する。
	にんじん	・収穫は6/11から、出荷は6/12から始まり、ほぼ例年どおり。 ・目立つ病害虫の発生も見られず、形状、品質は良好であるが、乾燥気味の天候により、収穫サイズは平年よりやや小ぶりとなっている。	・出荷終了時期は収穫状況を見ながらの判断となる（例年6月末）。

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
花き	シンテッポウユリ	【鉢作型】 ＜東部地区＞ ・5月下旬から抽苔開始した。生育は順調に推移。 ・一部ほ場でユリクビナガハムシ、シロイチモジヨトウ、葉枯病が発生している。 ＜中部地区＞ ・生育は順調。葉枯病などの目立った発生は見られていない。 【抑制ハウス作型】＜中部地区のみ＞ ・現在育苗中で、葉枚数は本葉2枚程度。生育は概ね順調。一部でかん水不良による焼け症状がみられる。 ・目立った病害虫は発生していない。	＜共通＞ ・梅雨で葉枯病、炭疽病病害等の発生が懸念されるため、予防防除の徹底を図る。 【抑制ハウス作型】 ・定植前に5～10日間苗冷蔵を行い、6月下旬から(ピークは7月上旬)定植予定。
	りんどう	・早いものが開花を始め、6/16から選花場の出荷が開始される予定。平年より3～5日程度早い出荷。 ・茎の曲がりがやや目立つ。	・病害虫の発生が多くなる時期であるため、予防防除の徹底を図る。
飼料	イタリアンライグラス	・一部地域では2番草の刈取が始まっている。	・1番草の収量は例年並み。
	飼料用トウモロコシ	・引き続き播種作業が継続されている。播種後の生育は順調。 ・一部圃場でネキリムシの被害が発生している。被害の大きい圃場は再度播種済み。	・播種は作業は6月下旬まで続く見込み。

【農作業安全について】
・涼しい服装・熱中症対策グッズを活用して熱中症を防ぎましょう。